

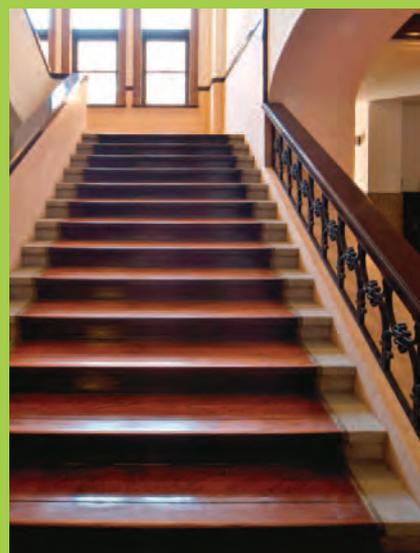


大学教育再生加速プログラム

2017年

プレゼミナールのご案内

2017年9月23日(土)・24日(日)



Ochanomizu University



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

9月23日（土）

10:00～10:30 開会式・全体説明

文系「コトバとモノ：伝える力、伝わる事物」

理 系

午前の部 10:40～12:10

午後の部 13:20～14:50

午前の部 10:40～12:10

午後の部 13:20～14:50

セミナー1（人文地理学）

人工的な都市と自然的な都市は、どこが違うのだろうか
定員30名

セミナーA（生活科学部人間・環境科学科）

生活工学への誘い
定員40名

セミナー2（言語学、第一言語習得）

子どもはどのようにことばを習得するのだろうか
定員30名

セミナーB（生活科学部食物栄養学科）

食べ物の基本
定員100名

セミナー3（発達心理学、認知心理学）

コミュニケーションの科学：よりよいコミュニケーションとは？
定員30名

セミナーC（理学部数学科）

複素数を、よい性質を持った「数」に広げてみよう 定員20名

セミナー4（比較文化論、生活造形論）

国宝《大井戸茶碗 喜左衛門井戸》を見る
定員30名

セミナーD（理学部物理学科）

宇宙の中の回転 定員制限なし

セミナー5（文化人類学、ジェンダー研究）

ことばラボ、はじめますーことば素材の分析を通じて
人間や社会について考えてみたいかた、求む！ 定員30名

セミナーE（理学部化学科）

エネルギー問題と環境問題を
考慮した「電池」の未来 定員35名

15:45～17:00

附属図書館見学（15:45～17:00（予定））

AO入試受験者（文系学科志望者）限定で、附属図書館を見学できます。この企画への参加は任意です。

（なお、附属図書館は改修中です。）

セミナーF（理学部生物学科）

食品アオサ・アオノリ類のDNA鑑定 定員20名

セミナーG（理学部生物学科）

DNA とRNA の抽出と電気泳動 定員16名

セミナーH（理学部情報科学科）

ゲームを通して考える情報科学 定員40名

※各セミナーの午前の部は、10:40～12:10、午後の部は13:20～14:50（各90分）を予定しています。

なお、セミナーA、B、Eは10:40～12:10の予定です。また、セミナーによって授業時間配分が多少異なる場合があります。

※AO入試受験者は、各セミナー終了後、ミニレポートを作成します（文系セミナーは30分、数学科、物理学科、情報科学科は60分、化学科は90分、生物学科は30分、人間・環境科学科、食物栄養学科は45分）。

9月24日（日）

図書館情報検索演習

午前、午後の2回実施します。お好きなほうにお申し込みください（ただしAO入試受験者は受講不可）。

午前の部：9:30-12:30

定員 40名

午後の部：13:30-16:30

定員 40名

理学部生物学科

大学院生による
研究ポスター発表
10:00-12:30

自主研究課題相談会
13:30 - 15:30
※延長あり

プレゼミナールのご案内

お茶の水女子大学では平成29年度入試から、「新フンボルト入試」という新型AO入試を始めました。ものごとを深く考究する力、自ら課題を見つけ、データを集めて論理を構築する力、そうした豊かなポテンシャルをもった人を選抜したいと思えます。知識の量ではなく、知識をいかに活用できるか、を問う入試です。そしてその一次選考の一環をなすプレゼミナールを、9月23日(土)・24日(日)に開催します。2日にわたるプレゼミナールでは、お茶大の専門研究分野から選りすぐりのセミナーを開講し、AO入試の受験者のみならず、広く高校2・3年生にも開放して、お茶の水女子大学の校風や大学という学問の世界を垣間見てその面白さや奥深さを実際に体感してもらいたいと考えています。一部企画には高校教員の方も参加できます。このプレゼミナールは、AO入試の一部ではありますが、アカデミックなオープンキャンパスという色合いを強くもっています。AO入試を受験する人は、初日のいずれかのセミナーへの出席、ミニレポート作成が必須です。なお、AO入試の詳細についてはAO入試学生募集要項を参照してください。



9月23日(土)

文系

今年の文系分野は、「コトバとモノ：伝える力、伝わる事物」をキーワードに、各セミナーを開講します。5人の先生たちが、それぞれの専門分野のホットな問題を取り上げて、午前中は講義、午後はグループワークや討論などみなさん自身が参加する演習というかたちで授業を行います。各セミナーの受講はAO入試受験者を優先とし定員30名とします。

下記5つのセミナーから選択してください。 定員30名(総定員150名) 9月23日 10:40~14:50

セミナー1

「人工的な都市と自然的な都市は、どこが違うのだろうか」(水野勲：人文地理学)

このセミナーでは、二人の都市計画家(女性と男性)の言葉をめぐって、都市について考え、議論したいと思えます。一人は、「豊かな都市は歩いて楽しい都市である」と述べました。もう一人は、「都市はツリーではない」と、謎のような言葉を述べました。私の考えでは、二人はほぼ同じ内容を、別の言い方で述べています。ここで「ツリー」とは、数学の概念で、木のように階層化された形式をさしています。午前の講義では、新しく計画された都市、たとえば遷都(首都建設)、開拓都市、ニュータウン、工業都市のプランについて説明し、これに基づいて午後のグループ学習では、いくつかの都市の地形図を細部にまで詳細に読みながら、人工的な都市と自然的な都市の違いはどこにあるのか、いっしょに考えてみましょう。

セミナー2

「子どもはどのようにことばを習得するのだろうか」(山腰京子：言語学、第一言語習得)

みなさんは、幼い頃に日本語を流暢に話せるようになったのを不思議に思ったことはありませんか。私たちは1歳ごろはじめの一語を発話し、6歳ごろにはほぼ大人と同じことばのしくみ(文法)を習得しているといわれていますが、その習得過程ではどのようなことが起こっているのでしょうか。午前のセッションでは言語学の視点から、子どものことばの習得メカニズムについて、大人の外国語の習得との違いにもふれながら、これまでの研究成果を紹介します。午後のセッションでは、グループに分かれて子どもたちの自然なおしゃべりの発話データを見ながら、子どものことばの文法構造の分析を試みます。子どもがどのようにことばを習得しているのか、また子どものことばの習得は大人の外国語の習得とどのようにちがうのか、その秘密に迫ってみましょう。

セミナー3

「コミュニケーションの科学：よりよいコミュニケーションとは？」(上原泉：発達心理学、認知心理学)

私たちは、日常的にコミュニケーションを行っていますが、深くコミュニケーションについて考えてみたことはあるのでしょうか。私たちは大方、言葉でやりとりをしますが、言葉を持たない、赤ちゃんや動物はどのようにコミュニケーションを行っているのでしょうか。動物には動物特有の“言葉”があるのでしょうか。また、そもそも、私たちは日常的にどのような内容を伝えたり、語り合っているのでしょうか。コミュニケーションについては、学問的にすべてが解明されているわけではありません。本セミナーでは、心理学を切り口に、複数の視点からコミュニケーションに関わる知見を紹介しますので、コミュニケーションのあり方についてみなさんと一緒に考察できればと思います。

セミナー4

「国宝《大井戸茶碗 喜左衛門井戸》を見る」（鈴木禎宏：比較文化論、生活造形論）

物作りにおいては、結果において出来の良い物とそうでない物が生じます。一定の基準を満たす物が出荷されていく一方、基準に満たない不良品——例えば疵や歪みがある——は、その欠陥の程度によって値引きや廃棄処分の対象となります。

流通しはじめた物は時間の経過とともに劣化し、いつか壊れます。本来の機能を果たさなくなった物、あるいは果たしづらくなった物はゴミとして廃棄されるのが普通でしょう。物を長持ちさせるために、手入れや清掃、修理がおこなわれます。

このように欠陥、経年劣化、破損は通常否定的に捉えられますが、しかしこれらがむしろ肯定的に評価されることがないわけではありません。そのような場合、清掃や修復はその物の価値を維持するどころか、逆に下げてしまう行為になりえます。

器物の歪み・疵・汚れはなぜプラスの価値を持ち得るのでしょうか。このセミナーでは文化資源という観点からこの問題について考えます。具体的には国宝の井戸茶碗《銘 喜左衛門》を例に、茶の湯における道具の見方や文化財保護法などをとりあげます。

セミナー5

「ことばラボ、はじめます—ことば素材の分析を通じて人間や社会について考えてみたいかた、求む！」（棚橋訓：文化人類学、ジェンダー研究）

人はことばを学び、ことばを使って知識を手に入れ、社会の秩序を学び、他者との絆を手に入れます。ことばは、学習や伝達を可能とする重要な道具であるだけでなく、世界への主体的な参加をも可能とする多元的機能をもった道具です。それゆえ、文化・社会・宗教などの人間現象や政治・経済・医療などの現代社会の様々な事象の的確な理解のためには、専門分野が何かに拘わらず、各場面におけることばの働きを的確に分析して理解することが先ず求められます。本セミナーは「ことばラボ」と銘打ち、午前の講義では音声言語を中心にことばの特性に関する総合的知見とことば分析のための具体的研究手法の幾つかについて学びます。午後は、午前の講義で学んだことば研究の視点と手法を日本語や英語の素材に適用して実際にことばをめぐる課題の分析にグループで取り組み、さらに各グループが得た分析結果と発見を基にして、全体でのディスカッションを試みます。「ことばラボ」を通じて、ことばを見る「新たな眼」と「分析して考える」ことの楽しさを是非とも手に入れてください。

理系

理系の各セミナーは、従来理学部で行っていた「科学への誘いセミナー」をさらにブラッシュアップしたかたちで実施します。いずれも各学科の専門分野を活かした刺激的なセミナーです。未知の世界に挑戦する気持ちで挑んでみてください。

下記のセミナーから選択してください。 9月23日 10:40~14:50

セミナーA 10:40~12:10

定員
40名

「生活工学への誘い」（太田裕治：生活科学部人間・環境科学科）

科学は、その普遍性・客観性・論理性を武器に、世界の仕組みを明らかにしてきました。そして、その成果を実際に社会の中で役立てるためには、科学が精密に分析してきたメカニズムを総合して設計する多様な工学的手法の理解が不可欠です。しかしそれだけでは不十分です。社会や生活の中で課題が生じたらその現場を、当事者と同じひとりの人間として理解する必要があります。両者の理解によりはじめて、真に課題を解決できる工学的方法の創造が実現します。

セミナーB 10:40~12:10

定員
100名

「食べ物の基本」（村田容常：生活科学部食物栄養学科）

我々は毎日特に何も考えなくても食生活を送れるくらいに、食べるということはあまりにも当たり前の行為です。そして、家族で食べる食事、学校での給食、友達とのにぎやかな食事、一人で食べる食事など、食べる場面、食べ物の種類、調理法など様々です。しかし確かなことは、我々は、食べ物を食べないと生きていけないということです。これは第一義的には生物学的、生理学的問題です。生物とは何か、動物とは何かをまず考えてみましょう。ここでは人が食物を摂取しなければならない理由を、理科の知識を基盤にして考えてみます。中学や高校で学ぶ生物、化学、物理など理科の知識や考え方が、食べ物を食べる意義を考える上でいかに必要であるかを理解して欲しいと思います。また各人がそれぞれの食生活を構築するうえで何が重要なのかを考える手がかりをつかんで欲しいと思います。具体的には、エネルギーと食物、痩せる食品ってどんなもの、体の構成要素と食物、食品の安全の基本、体の中の化学反応と食物について話します。

セミナーC

定員
20名

「複素数を、よい性質を持った『数』に広げてみよう」(古谷希世子：理学部数学科)

私たちは子供の頃から、たし算、かけ算、そしてそれらの逆演算であるひき算、わり算を使っています。実数のたし算、かけ算では、交換法則が成立します。交換法則の他に結合法則と呼ばれるものも成り立ちます。交換法則と結合法則が成り立つので、実数のたし算、かけ算はどこからでも計算を始めてもいいということになります。計算のしやすいところからたし算、かけ算を始めても、適当に並び替えても結果は同じということです。これらの法則がなかったときの不便さは容易に想像ができます。

実数の次に習う数の体系として、複素数があります。複素数は「2次方程式を解くために導入された...」と高校の教科書で習います。複素数は実数と同じ規則でたし算とかけ算ができ、交換法則が成立します。同じようによい性質を持った複素数以外の数の体系は考えられるでしょうか？それは何かに応用できるのでしょうか？

または複素数体上のノルム多元体 A は、多元体であって、かつ任意の A の元 x と y について $\|xy\| = \|x\| \|y\|$ を満たすノルム $\|\cdot\|$ に関してノルム線型空間の構造も持ちます。定義からは無限次元のノルム多元体と言うものも考えることができますが、実はこれは起こりません。本セミナーでは、ノルム多元体になる『数』を、発見された歴史も含めて紹介する予定です。

セミナーD

定員
制限なし

「宇宙の中の回転」(森川雅博：理学部物理学科)

地球は自転しています。月も太陽も、星も銀河も、ブラックホールも天体はみんな回転しています。なぜみんな回るのでしょうか、どのように回っているのでしょうか。こんな素朴なところからサイエンスは始まります。地上のコマとは違うのでしょうか？素粒子のスピンとは違うのでしょうか？宇宙の回転に、何か共通点はあるのでしょうか？回転の謎を追って、宇宙を支配する法則を見つけたいきましょう。

参加者は、宇宙の回転に関する自由なテーマで、自分の考えや疑問などをじっくり考えてきてください。午前の話の発展として、回転にまつわる謎に関して議論を深めましょう。テーマは各自の興味に基づいて何でも持ってきてください。例：

1. 月面はなぜいつも同じ面を地球に向けて回転しているのでしょうか？金星は？そのことによってどんな面白い現象が起こりうるのでしょうか。
2. 銀河やガスは回転しています。その回転の様子から暗黒物質の存在とその広がりがわかります。暗黒物質はどんな役割を果たしているのでしょうか。
3. 回転するブラックホールは強力なジェットを放出します。そのエネルギーはどれくらいでしょうか？どんな影響があるのでしょうか？
4. 星ができるとき周りにちりとガスの回転円盤を作りこの中で惑星が生まれます。惑星はどうやって生まれるのでしょうか？
5. 素粒子も回転しています（スピン）。どれだけ速く回っているのでしょうか？素粒子の表面では光速度を超えたりしないのでしょうか？
6. 地球には大気や海洋の大循環があります。コリオリ力はどんな特徴のある構造を作るのでしょうか？
7. その他何でも。

セミナーE 10:40~12:10

定員
35名

「エネルギー問題と環境問題を考慮した『電池』の未来」(近藤敏啓：理学部化学科)

現代社会で深刻化している化石燃料の枯渇や地球温暖化などのエネルギー問題・環境問題の解決策の1つとして、『電池』があります。1800年にボルタが電池を発明して以来、電池は私達の日常生活を支えてきましたが、昨今その役割は益々広がっており、また重要視されつつあります。

『電池』とは、漢字が表すように、「電気を貯めておく池」でしょうか？本セミナーでは『電池』の基本原理について解き明かし、その歴史を概説したのちに、上記の社会問題の解決につながる新しい『電池』である、再生可能エネルギーを利用可能な「太陽電池」や再生可能エネルギーを貯めておくことが可能な「二次電池」の原理や機能を解説し、低コストでクリーンな『電池』をどのように研究・開発していくかを考えることで、研究の面白さを体験してもらいます。

セミナーF

定員
20名

「食品アオサ・アオノリ類のDNA鑑定」(畠田智：理学部生物学科)

酸素発生型光合成生物である「植物」には、植物プランクトン、海藻類、陸上植物などが含まれます。これら植物は約30億年前に誕生したラン藻類から進化し、現在では数十万種類にまで増加し地球環境に大きく影響を及ぼしています。

本セミナーでは、普段の生活には馴染みは無いが地球環境、海洋生態系および我々の生活に大きな影響を及ぼしている藻類に注目し、藻類と地球環境に関する講義と、食品として利用されている海藻類のDNA鑑定に関する実験を行います。

身近な海藻類にアオノリ類があります。アオノリ類は輸入量が制限されているIQ貨物です。近縁のアオサ類はそのような規制は無く、税関では輸入貨物がアオノリ類なのかアオサ類なのかを早急に判断しなくてはならず、本セミナー担当者の開発したDNAデータを用いた簡便で再現が高く安価な判別法で食品アオサ・アオノリ類を識別しています。本セミナーでも同じ手法で食品アオサ・アオノリ類をDNA鑑定してみよう。

セミナーG

定員
16名

「DNAとRNAの抽出と電気泳動」(服田昌之：理学部生物学科)

生物の基本設計図となる遺伝子という情報は、DNAという物質に書き込まれています。DNAの物質的な実体を直接見ることはできませんが、さまざまな工夫をすることでDNAがどのような特徴を持っているかを間接的に見ることはできます。このセミナーでは、分子生物学研究の基礎となっている実験道具を実際に扱い、DNAとRNAの抽出・酵素による分解・電気泳動による分析、という一連の実験をおこないます。実験材料には一般的な食材となっている魚を使い、その肝臓からDNAとRNAを抽出します。

セミナーH

定員
40名

「ゲームを通して考える情報科学」(浅井健一：理学部情報科学科)

みなさんは、もしかしたら情報科学科はコンピュータ好きな人がプログラミングをしている特殊なところと思っているかも知れません。確かに、情報科学科ではコンピュータを使います。プログラミングもしています。しかし、情報科学の考え方は一部の人のみが習得すれば良い特殊な知識ではなく、読み書きそろばんと同様、全ての人が身につけるべき基本的な知識です。本セミナーでは、その情報科学的な考え方を簡単なゲームプログラミングを通して体験します。単に目の前に見えているゲームだけではなく、その奥に潜む情報科学的な考え方を感じ取れたら成功です。

コンピュータの使用経験は仮定しません。情報科学の世界がどのようなものなのか、探究心とチャレンジ精神を持って受講してください。

9月24日(日)

図書館情報検索演習(午前または午後)

AO入試の二次選考として文系では「図書館入試」を行います。図書館入試とは、簡単には正解の出ない課題に対して、本学の図書館所蔵資料を自由に使って情報を集め、それらを組み立て、独創的な答えを見つけてもらう試験です。情報検索力や自分の考えを論理的にまとめる力は、今後の人生のあらゆる場面で絶対に必要となるスキルです。情報の集め方、活かし方を学んでもらう機会として、プレゼミナール2日目「情報検索演習」を実施します。

まず最初に、図書館スタッフによる情報検索のレクチャーを30分程度受けてもらいます。その後、2時間程度を使って、資料を調べ、論理を組み立てて、レポートを作成します。大学院生を補助としてつけますので、自由に相談することもできます。AO入試を受ける、受けないにかかわらず、この演習を受けることが今後の学習にとってプラスになるはず。なお、高校教員の方にも参観していただけます。ただし、AO入試受験者は受講できません。

(なお、附属図書館は改修工事中なのでなにかとご不便をおかけします。あらかじめご承知おきください。)

理学部生物学科による大学院生研究発表／自主研究相談会

研究ポスター発表では、生物学科の大学院生が最新の研究成果をポスターで発表します。研究のまとめ方の参考になると思います。また、研究の進め方などについて大学院生と自由に話すことができます。相談会では、自主研究の課題の選定や研究の進め方などについて大学教員が相談にのります(なお、理学部生物学科および生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科は、AO入試の二次選考で自主研究の成果のポスター発表を課します)。

2017年 お茶の水女子大学 プレゼминаール参加申込について

お申し込み方法

以下の1～3のいずれかでお申し込みください。できるだけ、申込フォーム、または、電子メールでお願いします。

1. 申込フォーム

申込フォーム (<https://goo.gl/S8xA2d> または、右QRコードから読み込んでください) から必要事項を入力し、申込みをお願いします。AO入試室にて受け付けましたら、admissions@cc.ocha.ac.jpより受領確認のメールをお送りいたしますので、必ず、[@cc.ocha.ac.jp](mailto:cc.ocha.ac.jp)からのメールを受信できるよう設定をお願いします。受信されたら、返信確認としてそのままご返信ください。



2. 電子メール

件名を「プレゼминаールエントリー」とご記入の上、下記必要事項を本文中に入力し、admissions@cc.ocha.ac.jp宛に、ご連絡下さい。

- ① 氏名（フリガナ）
- ② 高校所在地（都道府県）
- ③ 高校名
- ④ 学年（2年、3年、既卒、等。高校教員の方は、ご担当教科を記載してください）
- ⑤ 連絡先（電話番号）（日中、連絡の取れる番号をご記入ください）
- ⑥ Eメールアドレス（送信元以外の希望がある場合、記入してください）
- ⑦ 今年度AO入試出願予定の有無
- ⑧ 希望のセミナー 第1希望～第3希望まで。
ただし、理系学科出願予定者は、出願予定の学科のセミナーのみ第1希望として記入してください。
- ⑨ 附属図書館見学希望の有無（AO入試受験者のみ）
- ⑩ 二日目プログラムの参加希望
ただし、今年度AO入試出願予定者は、図書館情報検索演習、ならびに自主研究課題相談会には参加できません。
- ⑪ 質問、連絡事項等

なお、ホームページに掲載の申込書をダウンロードし、必要事項を記載の上、添付にて送信することもできます。

申込みを受け付けましたら、admissions@cc.ocha.ac.jpより受領確認のメールをお送りいたしますので、必ず、[@cc.ocha.ac.jp](mailto:cc.ocha.ac.jp)からのメールを受信できるよう設定をお願いします。受信されたら、返信確認としてそのままご返信ください。

3. FAXによるお申込み

ホームページに掲載の申込書をダウンロードして必要事項を明記の上、03-5978-2566 まで、FAXにてお送りください。申込みを受け付けましたら、申込書に記載のメールアドレス宛に、admissions@cc.ocha.ac.jpより受領確認のメールをお送りいたしますので、必ず、[@cc.ocha.ac.jp](mailto:cc.ocha.ac.jp)からのメールを受信できるよう設定をお願いします。受信されたら、返信確認としてそのままご返信ください。

【注意】

※AO入試受験者も、上記にしたがってお申し込みをお願いします。併せて出願書類の提出（願書への希望セミナーの記入）も必要ですので、プレゼминаールのエントリーと出願、両方の手続きを忘れずにしてください。

※準備の都合上、必ず**8月31日（木）17時**までに、上記1～3のいずれかで、お申し込みください。

※9月23日のみ、24日のみの参加も可能です。なお応募者多数の場合、希望のセミナーを受講できない場合があります。あらかじめご了承ください。AO入試受験者は、23日の参加は必須となります。エントリー締切日以降、調整のうえセミナー受講決定のお知らせをします。

※受講セミナーの決定やその他の追加連絡などは電子メールで行いますので、メールアドレスを必ずお知らせください（受験者は郵送とメールを併用します）。受領確認メールへの返信をもって確認をしますので、返信をお願いします。（返信がない場合には、連絡先に電話させていただくことがあります。）また、[@cc.ocha.ac.jp](mailto:cc.ocha.ac.jp) から一斉配信されるメールを各自、登録した携帯電話もしくはPCのメールアドレスで必ず受信できるよう設定の確認をしてください。

※エントリー後、何らかの事情で受講できなくなった場合には、速やかに下記AO入試室までご連絡ください。

※ご記入いただいた個人情報、本学の入試情報等のご連絡にのみ使用し、他の目的には一切使用いたしません。

申込み・問い合わせ先

お茶の水女子大学AO入試室

TEL 03-5978-2700

FAX 03-5978-2566

MAIL admissions@cc.ocha.ac.jp

プレゼминаルのエントリー方法について

文系、理系ともに多彩なプログラムを用意していますが、お茶大の特徴である少人数教育の醍醐味を体感してもらうため、事前エントリー制を取ります。応募者多数の場合は、AO入試受験者が優先となりますことをあらかじめご了解ください。エントリー期間は、8月1日（火）から8月31日（木）17時までです（必着）。申込フォーム、電子メールまたはFAXでお申し込みください。

(1) AO入試受験者

プレゼминаルへのエントリーとAO入試出願書類の提出（出願期間8月28日（月）～8月31日（木））の両方を期限内に必ず行ってください。プレゼминаルのエントリーはなるべく出願に先行して行ってください。

AO入試受験者のうち、文系学科志望者は、受講を希望するセミナーを第1～第3希望まで選んで申し込んでください。必ずしも志望学科が提供するセミナーを選ぶ必要はありません。セミナーの内容をよく読んで、もっとも興味があるものから順に3つを選んでください。なお応募者多数の場合には抽選になり、第2・第3希望のセミナーを受講する可能性があることをあらかじめご承知おきください。

理系学科志望者は、必ず志望学科のセミナーを選択してください。

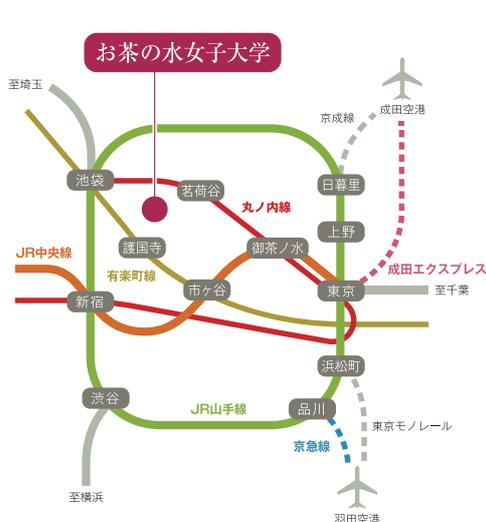
(2) 高校2年生およびAO入試を受験しない高校3年生

文系、理系ともにセミナー内容をよく読んだ上で、第1～第3希望を記入してください。なお応募者多数の場合、抽選となることがあります。

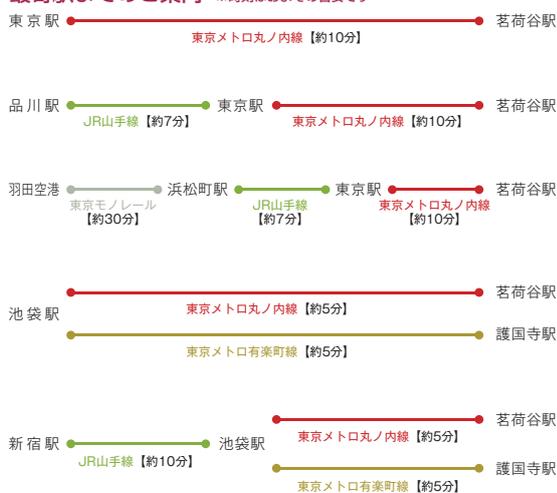
(3) 高校教員の方

9月24日（日）の企画のみ、参観していただくことができます。

エントリー締め切り後、どのセミナーを受講できるかを、できるだけ早くお知らせいたします。またその後のご連絡は、主としてメールで行う予定です（AO入試受験者への入試に関する連絡は郵送します）。



最寄駅までのご案内 ※時刻はおよその目安です



- 茗荷谷駅（東京メトロ丸ノ内線）より徒歩7分
- 護国寺駅（東京メトロ有楽町線）5番口より徒歩8分
- 大塚二丁目停留所（都営バス）下車徒歩1分（都02番、都02乙番）

申込み期間	2017年8月1日（火）～8月31日（木）17時
参加資格	高校2・3年生（女子） 高校教員（男女不問）
申込み方法	申込フォーム、電子メールまたはFAX （メールの件名を「プレゼминаルエントリー」としてください）

申込フォームは
こちらから
アクセスできます



申込み・問い合わせ先 お茶の水女子大学AO入試室

TEL 03-5978-2700 FAX 03-5978-2566 MAIL admissions@cc.ocha.ac.jp